令和4年度　瀬田小学校学校　評価に関する説明

| 項目 | | 一時 | 評価の観点 | 小項目の評定 | 肯定的意見の割合 | 評価 自己（職員）ABC | 評価 学校関係者ABC | 項目に関する分析・意見・提言 など（〇職員　●学校関係者） | 今後の改善に向けて |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進 | 主体的・対話的で深い学び | 1 | 互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団作りに努めた。 | A | 97.0 | A | A | 〇めあてを示す板書や、授業の展開の統一を継続して行っている。<br>〇互いの違いと良さを知り、認め合う学級集団づくりを実践できた。<br>〇コロナ禍で全員が集まって研究会ができないが、先を見据えた授業研究を意識し、いろいろな先生方からたくさんの意見を聞くことができた。<br>〇学年部による研究授業だったので、発達段階に応じて、どのようなアプローチをするべきか、わかりやすい研究になった。<br>〇研究授業を公開するときに、細かな部分まで学年で相談ができ、授業内容を向上させるよいきっかけになった。<br>〇年齢や経験を問わず意見を出し合えたのが良かった。<br>〇めあて・ふり返りを毎回行うことで、子どもたちは見通しを持って授業に挑めたり、次回の授業の意欲を高めたりできた。<br>〇文章を読み合う活動を取り入れ、いいところをほめ合うことで、互いに認め合う支持的風土を育むことができた。<br>〇制限が多い中、工夫を凝らしつつ研究を進めてこれた。<br>〇「ことわざ」「四字熟語」の掲示物を研究推進部メンバーで統一して進めてこられた。<br>〇コロナ禍ということもあり、なかなかグループ活動や伝え合う活動が取り組めなかった。全職員で公開授業を参観できないので、低・中・高の系統性が見えにくい。<br>●全校人数の多い中、きめ細やかに授業を行っている様子が、参観などを通して、見受け感じられた。<br>●学習内容などを制限するばかりでなく、ルールを厳守し今までの活動を行っても良いのではないかと思う。 | 〇今年度も公開授業を行い研究協議会も実施でき、とても良かった。身近な学年である学年部での校内研究は、発達段階や日々の積み上げ、系統性がわかり大変勉強になった。また時前、公開授業、時後と学年で取り組んだことで成果が目に見えてわかった。コロナが終息しても、学年1授業で学年部で取り組んでいきたい。振り返りの仕方や、授業の進め方など学校全体で取り組んでいきたい。（学校の規模・学級数・教師の人数などを考慮して）<br>〇昨年度、取り組んだスマイルタイムでの書く力が、今年度の書く力へと繋がり成果が出ている。子どもたちが書くことに抵抗が見られなくなった。書く力が高まっていると感じる。よりよく書くために、どんな手だてをして、全体の底上げをしていけばいいか今後も考えていきたい。<br>〇子ども達がよく通る廊下に「ことわざ表・四字熟語」を掲示したので普段から子ども達がよく目にしていた。<br>〇今年度は「書く」の5年目であり、【「書く」を他教科に繋げる・生かす】の集大成として取り組めた。様々な教科を参観することができ大変勉強になったので、来年度の校内研でも、教科を絞らず、多くの教科を参観し研鑽を深めていきたい。<br>〇算数科や学びの確認テストでの説明問題が間違っていることが多い。書く力は定着してきたが、話す力や表現する力が弱い（恥ずかしがったり上手く伝えられなかったりすることが多い）ので、話し合い活動や言語活動にも力を入れていきたい。 |
| | | 2 | 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。 | A | 98.0 | | | | |
| | | 3 | 「めあて」「ふり返り」や学び合いを取り入れた授業づくりを行うなど、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会に取り組んだ。 | A | 92.0 | | | | |
| | 道徳教育の充実 | 4 | 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を工夫した。 | A | 97.0 | C | B | 〇2学期から「場面演技」の手法を用いている。登場人物の気持ちをじっくりと味わえるようになった。<br>〇実物に近いものを見せるために（日本のおかし）、一人一台タブレット端末を用いた。<br>〇「わたしたちの校歌」という単元では、校長先生にインタビューを行うことで、自分の学校のことや先人たちの思いについて興味をもつように促した。<br>〇生活科「ぐんぐん育て　わたしの野菜」の学習では、実際にダイコンやミニトマトを育てる活動を通して、自然生命を尊重する態度の育成に努めた。<br>〇道徳の教材を作り、共有してきた。1授業ずつ入れて指導案のコピーもひとまとめになっているため、使いやすく良かった。<br>〇タブレット端末の活用では、堪能な先生が先導してタブレットの扱いを安全かつ効率よくすすめる方法を共有したり、様々な授業で資料をつくり、活用したりできた。まなびBOXも取り入れて、少しずつ子どもたちの技能向上ができている。<br>〇学校の行事などに合わせて、それにあった学ばせたい価値の単元を選ぶようにした。<br>〇道徳ノートを活用し、学びの足跡を子どもが確かめられるようにした。<br>〇少人数で学習をするので、文章を一緒に読んだり、対話を中心にして学習を進めている。<br>〇友だちの考えを聞けるように、若草内で道徳の授業が同じ時間割になるように調整している。<br>〇価値項目の中の「よりよい学校生活、集団生活の充実」の内容を校外学習の前に、各学級で実施したことで、より子どもたちの生活に生かせるものにすることができた。<br>〇高学年においては道徳の時間、担任が交代しながら授業をするなどの工夫をすることができた。（教材研究の時間短縮、学年での児童理解、確実な実施）<br>〇以前は道徳参観を行っていたが、年二回の参観が次年度以降増やせるようであれば、実施していって良いと思う。<br>〇今年度も公開授業を行い研究協議会も実施でき、とても良かった。身近な学年である学年部での校内研究は、発達段階や日々の積み上げ、系統性がわかり大変勉強になった。また時前、公開授業、時後と学年で取り組んだことで成果が目に見えてわかった。コロナが終息しても、学年1授業で学年部で取り組んでいきたい。振り返りの仕方や、授業の進め方など学校全体で取り組んでいきたい。（学校の規模・学級数・教師の人数などを考慮して）<br>〇昨年度、取り組んだスマイルタイムでの書く力が、今年度の書く力へと繋がり成果が出ている。子どもたちが書くことに抵抗が見られなくなった。書く力が高まっていると感じる。よりよく書くために、どんな手だてをして、全体の底上げをしていけばいいか今後も考えていきたい。<br>〇子ども達がよく通る廊下に「ことわざ表・四字熟語」を掲示したので普段から子ども達がよく目にしていた。<br>〇今年度は「書く」の5年目であり、【「書く」を他教科に繋げる・生かす】の集大成として取り組めた。いろいろな教科を参観することができ大変勉強になったので、来年度の校内研でも、教科を絞らず、いろいろな教科を参観し研鑽を深めていきたい。<br>〇算数科や学びの確認テストでの説明問題が間違っていることが多い。書く力は定着してきたが、話す力や表現する力が弱い（恥ずかしがったり上手く伝えられなかったりすることが多い）ので、話し合い活動や言語活動にも力を入れていきたい。<br>●意見としてはないが、工夫して取り組んでいただけるように希望する。<br>●次年度は参観の回数を増やし、道徳の参観授業を行ってほしい。親子で共通の話題ができ、話し合う機会が作れると思う。<br>●交流や参観がしづらい状況ですが、今までと違う形式で交流や公開をする努力をされているのならば、良いのではないか。<br>●子供たちの道徳教育の基盤となるのはやはり家庭教育であると考える。学校だけでなく家庭と連携した道徳教育を行う必要があると考えている。 | 〇学年が上がっても、場面演技をたくさん経験させたい。<br>〇授業の中で、どのようにICTを活用していくのか、学校の中で研修するなどして、有効な活用方法を探って、広げていきたい。<br>〇新型コロナ感染症のために、参観自体を自粛していたが、今年度は二回実施することができた。来年度は、道徳参観も復活させ、学校でどのように道徳を学習しているのかを、保護者や地域の方にも周知していきたい。<br>また道徳の参観授業を取り入れることによって、家庭でも子供たちと同じテーマで考える機会を作り、家庭と学校の両面より道徳教育を充実させていく手立てとなるようにしたい。<br>〇6年生で実施している担任交代制での授業は、教材研究の時間短縮や、学年理解に非常に有効であると考える。他学年にも、この手法を取り入れていきたい。 |
| | | 5 | 道徳の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に努めた。 | C | 77.0 | | | | |
| | | 6 | 道徳の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。 | D | 31.0 | | | | |
| | | 7 | 子どもたちの学習において、一人一台のタブレットを有効に活用するように努めた。 | B | 85.0 | | | | |
| | 体力づくり | 8 | たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。 | A | 95.0 | A | A | 〇新型コロナウイルスによる制約のある中で、それぞれの学年の先生方が工夫して授業を進めてきた。<br>〇若草体育で子どもたちが運動に親しむことができるように授業内容を検討した。<br>〇コロナの影響のある中で、体力づくりに向けた行事の話し合いができ有意義であった。<br>〇コロナウイルスが蔓延してから、今まではなかなか実現できなかった学習（運動会・水泳学習等）が徐々にもどってきつつある。<br>〇大規模校である本校は、イベントや行事等、コロナ禍前のような形にもどすことはできないので、新しい形を模索しながらニュースタンダードを作っていく必要がある。<br>〇楽しんで体力作りができるような授業内容の工夫を行うことができた。<br>〇毎時間iPadを用いて授業のふりかえりを行い、次時への目標を持って体育授業に臨むことができた。そのふりかえりを生かして子どもたちの意欲が継続するように場の設定や教具を工夫した。<br>●運動会のビデオ、校庭での様子で、工夫をして体力作りに励み、行事を良い形として実施していた。子どもたちも意欲が高まったように思える。<br>●マンモス校でコロナの制約があるにもかかわらず、工夫と努力を顕著に見ることができる。よりいっそうの工夫を子どもと共に考え実行してほしい。<br>●児童数の多い学校であり、難しいことであると思うが、グラウンドでの休憩時間帯に体を思いっきり動かせるシステム作りが必要ではないか。 | 〇運動会・水泳学習等を大規模校として実施するにあたって、同規模校は少ないものの、近隣校の実践を参考に年度末・年度初めの早い段階より計画を立てていきたい。<br>〇ICTを用いて体育学習を行ってきているが、「ICT機器を使うこと」が目的にするのではなく、ICTを効果的に用いた体育学習ができるよう、研修会などで学校全体に周知していく必要がある。<br>〇児童数が多く、グラウンドやプールなどの体育施設がほぼ限界に近い状態ではあるが、子ども達が思いっきり体を動かせるシステムを構築していきたい |
| | | 9 | 運動会、リレー大会、などの行事の取り組みを通して、目標を持って体力づくりを推進する運動実践に努めた。 | A | 95.0 | | | | |
| | | 10 | 体を動かす気持ちよさを体験させるとともに、学習カードを工夫するなどして進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。 | A | 95.0 | | | | |
| | 指導改善（組織的・計画的） | 11 | 指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。 | A | 95.0 | A | A | 〇朝読書、スマイルタイム（15分の帯学習）が定着している。<br>〇職員アンケートより、めあての提示については、昨年度から高評価を維持しており、児童、教員ともに学習の中でめあてを意識することが定着しつつある。<br>〇職員アンケートより、振り返りの実施については、昨年度の2月の評価から5％下回った結果となった。継続して「振り返り」の実施を重視した授業改善について検討を続ける必要性がある。<br>〇職員アンケートより、OJT研修について肯定評価94％であった。メンター制度が定着しつつあり、OJT推進の成果だと考えている。この数年はコロナ禍ということもあり、授業公開をしたり、参観したりする機会が減り、研究会に参加する機会が減っている。ICT機器を活用することや、研究会のもち方を工夫するなどしていくことが必要だと考えている。<br>〇インターネットを介してアンケート調査を実施することで、校内での入力・集計業務の負担軽減をすることができた。<br>〇GIGAスクール整備端末の活用し、教材作成の時間を短縮したり、作成した教材の共有が容易になった。<br>〇GIGAスクール整備端末を活用し、教材作成の時間を短縮したり、作成した教材の共有が容易になった。学年で資料やファイルを共有したり、ICT機器による視聴覚支援を増やしたりすることで、効率化しているように思う。<br>〇一人一台のipadは、調べ学習等様々な場面で気軽に使えたので良かった。<br>〇低学年にもipadが導入されたことで、全校的な取り組み（アンケート等）もオンライン化することができ、業務の効率化につながった。<br>●ipadを使用し新しい形で学力向上に前進していけていると思う。<br>●研修や授業の手法をネットワークを活用し、情報や知識を共有してはどうか。 | 〇一人一台のiPadをより活用していくための、家庭への持ち帰りについても推進していく必要がある。<br>〇iPadの使用が増えることに伴ってトラブルも増加する可能性があるため、学習以外に使わないなどの基本的な指導を今後も徹底していく必要がある。<br>効果的な「振り返り」を実施するために、視点を与えることが効果的だと考えている。教室内に振り返りをする際の視点（例：①理解したこと②活用できること③納得したこと④今後追求したいこと）を示し、教師も児童も意識するきっかけとなればと考えている。<br>〇スマイルタイムで扱う内容については、今年度の学力調査の分析結果や来年度の校内研究の内容などを踏まえて協議し、決定していく。 |
| | | 12 | 各推進委員会を通して、取組の重点について。取り組むことに努めた。 | A | 90.0 | | | | |
| | | 13 | 学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。 | B | 82.0 | | | | |
| | | 14 | 働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めた。 | A | 93.0 | | | | |
| 育ちと学びを支える連携 | 家庭・地域との連携 | 15 | 保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。 | A | 97.0 | B | B | 〇今年度はHPを一新し、子どもたちの様子や学校からのお知らせなど、各担当で分担しながら発信することができるようになった。<br>〇緊急時メール配信システムを整備することで、学年、学級を指定して配信でき、役立った。<br>〇感染症拡大のリスクを抑えながら、分散参観を実施した。アンケートを実施して、今後の取り組みに繋げていきたい。<br>〇ここ数年コロナ禍の中で、避難訓練などの防災教育が不十分であったが、3学期に避難訓練が実施できたことは良かった。<br>〇ここ数年地域との連携した防災教育が十分行えていない。<br>●今後、地域と連携した防災教育が行えるように希望します。<br>●ベッパー君を活用して、突発的な避難訓練を行ってはどうか。<br>●PTA活動の一環として、ベッパーを導入されたことは、素晴らしいと思っている。 | 〇今年度、分散参観を二回実施することができた。学年別の運動会も実施することができた。学校評価アンケートやCS等でいただいたご意見をもとに職員で協議を重ね、来年度さらによりよい形となるようにしていきたい。<br>〇登校時間の繰り下げが必要な場面があり、緊急時のメール配信を行った。年度当初メール登録を全ての保護者にしていただいたが、アドレスの変更やスマホの変更等で通知がうまくされていない保護者がおられ、連絡が届いていないケースがあった。学校HP等でメール登録のバーコードを掲載するなどの処置はとっているものの、まだまだ周知されていない事がある。今後さらに紙面での連絡を削減していく方向なので、新たな対策を考えていく必要がある。 |
| | | 16 | PTAと教職員が連携し、保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域の施設・地域人材の活用に努めた。 | C | 72.0 | | | | |
| | | 17 | 家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進や感染症対策の推進を図るため、メール配信やホームページを活用した情報発信をし、安心・安全な学校づくりに努めた。 | A | 92.0 | 平均 87.0 | | | |
| | 保幼小中の連携 | 18 | 保幼小中のつながりを意識し、子どもの校種間交流や教員の出前授業等の具体的な連携に努めた。 | C | 51.0 | D | C | 〇感染症拡大防止の観点からこの数年は、一日体験入学は中止となってしまっている。より校園での連絡を密にとったり、学校の様子が園児に少しでも伝えられたりするような取り組みが必要だと考えている。<br>〇コロナ禍以降、全く交流の場は取れていない。<br>〇接続期の教育課程については、学年はじめ1週間ほどは、学年で統一してなだらかに学校生活に慣れていくように設定しているが、保・幼と共有しているものではない。<br>〇コロナ禍の中で、保幼小中での研修会や、交流授業等は全く行えていない。<br>●「ZOOM」などを活用して授業風景を配信するなどしてはどうか。また、教師の意見交換や交流の場を設定してはどうか。<br>●それぞれの校園での協力者会議に、校長は必ず出席されているので、できる限りの交流はできていると思います。<br>●感染予防策を十分に講じて、積極的に取り組んでいってほしい。 | 〇夏休み等の長期休業期間を利用して、接続期の教育課程について、隣接の瀬田幼稚園と共有できる機会を持つことは可能。<br>〇感染状況を鑑みながら、一日体験入学、入学説明会が来年度は実施できるように協議を進めていく。書面開催の良さも含めて、新しい形を模索していく。<br>〇感染状況を鑑みながら、一日体験入学、入学説明会が来年度は実施できるように協議を進めていく。書面開催の良さも含めて、新しい形を模索していく。<br>〇保幼小中の連携の様子などを、HPやメール配信等を用いて外部に発信していく必要がある。 |
| | | 19 | 保幼小・小中の校種の枠を超えた授業公開や合同研修会を実施した。 | D | 49.0 | | | | |
| | | 20 | 保幼小の接続期の教育課程の編成など校種間のカリキュラム研究を通して教育内容等についての交流に努めた。 | D | 30.0 | | | | |
| 組織体制の充実 | 生徒指導体制の充実 | 21 | 子どもが気軽に相談できる雰囲気づくりや毎月のアンケートを通して、いじめや生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。 | A | 95.0 | A | A | 〇学校全体に「いじめは絶対してはいけない」という風土が作られている。<br>〇必要な時に生徒指導通信を出し、情報共有を図っている。<br>〇毎月のアンケートは複数の目で内容を確認し、問題の早期発見と対応につなげることができた。<br>〇各担任と担当、支援員が連携し、複数対応で丁寧に子どもを見取ることができている。<br>〇教務と担任とのコミュニケーションを日頃から細かくとり、子どもの様子を共有することで問題行動の未然防止につなげる。<br>〇委員会で積極的に暮らしにかかわる呼びかけができている。例えば、走らない呼びかけ、もくもく掃除のチェックなど。<br>〇年間8回のアンケートと、年間3回の個別面談で、子どもたちの悩みをより早くキャッチし、早期発見に努めた。<br>〇問題行動・いじめや不登校などで気になる事案はケース会議を開き、組織的な対応に努めた。<br>〇気になる事案については、児童生徒支援課との連絡を密にし、組織的な対応に努めた。<br>〇不登校傾向のある子ども対応は、担任だけでなく教務と連携して、組織対応ができた。<br>●あいさつ運動や協力者会議などに参加させてもらい、しっかりと子ども達に向き合っておられることがわかります。大変だと思うがますます向上していただけるように願っている。<br>●「いじめを絶対にしてはいけない」という風土は壊さないように子どもと共に維持してほしい。<br>●組織を大切にして根気よく実行してほしい。問題は組織で解決していけるように。<br>●あいさつと同時に学校生活が始まるよう、子どもと全教師で作り上げていってほしい。 | 〇事案が発生したときには、担任と連携して教務部が組織的に対応できた。今後、学年部で事案について共有し、どう解決していくかを検討する流れを作りたい。<br>〇来年度は、定期的にいじめに係る校内研修を実施したい。いじめ報告書の作成、SNSトラブル、特別支援系の保護者の対応について等。<br>〇6月、10月のいじめ防止対策に関する取組については、子ども発信で行いたい。<br>〇「せたっ子心を育てる三つの約束」について、目標が三つに限られているために効果的に指導できた。・朝の放送→クラスでの目標設定という流れができているので、どのクラスも取り組みやすかった。<br>〇今後、振り返りの時間を大切にしていきたい。また、その方法なども検討が必要。との共有や連携の方法、役割分担などをどのようにしていくとより効果的なのかを協議していくことが必要。 |
| | | 22 | 問題行動や不登校などの課題に対して、組織的な指導・支援ができた。 | A | 95.0 | | | | |
| | | 23 | あいさつ、瀬田小のくらし（やくそく）、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。 | A | 94.0 | | | | |
| | 特別支援教育の充実 | 24 | 校内委員会を組織し、支援を要する児童の支援計画及び指導計画を作成・活用し、支援に努めた。 | A | 95.0 | B | B | 〇個別の支援が必要な児童に対して、保護者と相談の機会を定期的に持ちながら、個別指導計画をもとに適切な支援を行うことに努めた。<br>〇特別支援コーディネーターと担任との1対1対応になることが多く、組織的な特別支援教育の体制には至らなった。時間的な制約もあるが、子ども推進部会を中心に、組織体制を強化していきたい。<br>〇巡回相談・通級指導教室・子ども発達相談センター・SC・SSW等と積極的に連携し、相談体制はとても充実できた。しかしその結果を特別支援コーディネーターと担任との間で共有するのみで、学年や子ども推進部で共有することまでは、できていないことが多かった。<br>●組織委員の確立と運営の方針と定期的な会議・検討会を設定する必要がある。 | 〇個別の状況や対応について、最新の情報を回覧するなどして。学年や子ども推進部で情報を共有できるようにする。<br>〇児童の支援の必要性や特性をいち早く察知し、担任と情報を共有し、保護者の思いを理解しながら対応していける組織づくりを行っていく必要がある。 |
| | | 25 | 特別支援教育コーディネーターを核に、各担当者が連携して組織的・計画的な特別支援教育の体制作りに努めた。 | B | 87.0 | | | | |
| | | 26 | 巡回相談等を活用し、関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。 | B | 84.0 | | | | |